

(様式第1号)

令和7年度 第2回総合教育会議 会議録

日 時	令和7年11月6日(木) 14:00~15:30
場 所	市役所本庁 南館4階 第1委員会室
出 席 者	高島市長 野村教育長 河盛教育委員 森川教育委員 三宅教育委員 芳村教育委員
司 会	柏原企画部長
事 務 局	企画部 部長 柏原 由紀 企画部国際文化推進室 室長 田嶋 修 企画部市長公室 室長 伊藤 浩一 企画部市長公室政策推進課 課長 田中 孝之 企画部市長公室政策推進課 係長 内野 裕太 企画部市長公室政策推進課 主査 河合 徹 企画部市長公室政策推進課 課員 西畑 裕人 企画部市長公室政策推進課 課員 藤岡 那緒 企画部市長公室市民参画・協働推進課 山川 尚佳 教育部 部長 萩原 裕子 教育部 参事(学校教育担当) 塩山 利枝 教育部教育統括室管理課 課長 長岡 良徳 教育部教育統括室管理課 課長補佐 無量林 良蔵 教育部学校教育室学校教育課 課長 尾上 昌希 教育部学校教育室保健安全・特別支援教育課 課長 藤田 博嗣 教育部学校教育改革推進室 室長 山川 範
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	なし

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題1 第5次芦屋市総合計画後期基本計画におけるパブリックコメントの結果について

(3) その他

2 提出資料

(1) パブリックコメントにおける周知の実施について

- (2) パブリックコメントの実施結果について
- (3) 子ども向け意見募集の実施について
- (4) 子ども向け意見募集（意見一覧）
- (5) 子ども向け絵本（総合計画版）
- (6) 【参考資料】第5次芦屋市総合計画後期基本計画・第3期芦屋市創生総合戦略・第4次芦屋市市民参画協働推進計画及び第3次芦屋市文化推進基本計画（原案）

（柏原部長）

ただいまより、令和7年度第2回総合教育会議を開催します。

芳村委員におかれましては、10月に教育委員に就任されてから、初めての総合教育会議へのご出席となります。よろしくお願いいたします。

それでは市長より、開会のご挨拶をお願いします。

（高島市長）

こんにちは。本日は第2回総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。

また、芳村教育委員、今回からよろしくお願いいたします。

教育委員会と市長部局は、基本的に独立した関係性ですが、この総合教育会議は、一緒に話し合っ、大きな方向性を協議・調整していこう、みんなで考えようという場です。ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。教育は教育委員会だけで進めていかなければならないものもありますが、全市一丸となって進めていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

Education Dayについて、たくさんの方にご参加いただきありがとうございました。2日間合計で300人から400人近くの方に参加いただき、改めて芦屋の教育を良くしていこうという動きが広がってきていることを実感しました。

秋のDay1では毎回コーディネーターを務めています。芦屋の教育について理解していただいたうえで、「さらにここはどうか」といった、より深い質問をいただくことが増えてきているように感じます。改めて、期待してくださっている市民の方がたくさんいらっしゃることを感じていますし、市外の方も含めて注目していただいていると思いますので、アピール、発信も含めて、これからもやっていただきたいなと思います。

令和7年度第1回総合教育会議から今回までの間に大阪・関西万博が終わりました。万博に行かれた方もそうでない方もいらっしゃると思いますが、行った方の感想としては、「楽しかった」と思われた方が多いのではないのでしょうか。ただ、客観的に見ると、万博は学びの場であったはず。環境問題、貧困の課題、世の中に存在する様々な社会課題があつた場にはたくさんありました。「学び」というと、どうしても辛いもの、苦しいもの、できれば

避けたいものと捉えられがちですが、面白かった、楽しかった、学びになったという感想がどのように生まれたのかということは、今後の「学び」を考える上でのヒントになるのではないかと思います。非日常の空間であったことや、かけている経費の違いもあったかと思いますが、あのような楽しく学べる環境、あるいは、学びは面白いと感じてもらえる環境を日常のなかにどう作るかという観点は、非常に良いヒントになるのではないかと思います。

Day2では、UCCの皆様と一緒に取り組んだ内容もありました。外部の力も借りながら、より実社会との繋がりも考えて進めていくという切り口も考え、これからの学びについて考えていきたいと思っています。

本日は、前回ご審議いただいた総合計画について、パブリックコメントが終了しましたので、その結果について議論できればと思います。これからの5年を見据えて作成していく大きな計画であり、前回の総合教育会議での議論を踏まえ、こどもたちの意見もたくさん聞いてきましたので、そちらも見ていただいて、忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

(柏原部長)

ありがとうございます。それではこれより議題に入ります。本日の議題、第5次芦屋市総合計画後期基本計画におけるパブリックコメントの結果について、担当課長より説明します。

(伊藤室長)

お手元の資料の説明に入る前に、総合計画と教育との関係性、そして総合計画の現在の状況をご報告します。

総合計画は、市の行政運営上の最上位計画という位置づけになっており、この計画と連動する形で、他の教育の計画や福祉の計画など、様々な計画が紐づいています。

現在策定中の第5次総合計画の後期基本計画の中では、「学び」「文化」「協働」という3つの要素を重視している、ということを前回もご説明しました。本市では従来、教育に関しては教育振興基本計画という、総合計画とは別の計画があり、そちらで教育の取組の方向性などを取り決めていましたが、今回3つの要素の1つとして「学び」を重視していくという観点から、教育振興基本計画が示すような大きな方向性については、総合計画の中に取り入れることとしました。以上の経緯により、総合教育会議の場で、総合計画を担当する市長と、教育を担当する教育委員会で協議・調整を行なうこととなっています。

続いて、総合計画の状況についてご説明します。

総合計画については、昨年度から、学識経験者や市民の方にもご参加いただいた審議会で「学び」の内容を含めて議論を重ね、市民の皆さまからもアンケートなどでご意見をいただ

きながら、9月に素案を策定しました。

その素案をもって、今年9月から10月にかけて、市民の皆さまにご意見を伺うパブリックコメントを実施しましたので、本日はそのご報告をいたします。

資料1をご覧ください。資料1は、パブリックコメントを実施するにあたり、どのような周知活動を行なったのかを記載しています。

項番4「SNS広告の展開」をご覧ください。今回初めて、計画関係でこのような取組を実施しました。皆さまも直感的に思われるように、若い世代の方々から総合計画に対するご意見をいただくことは難しい傾向にあります。

そこで今回、実験的な試みとして、SNSに広告を出しました。結果としては、広告の表示回数は約254万回でしたが、そのうち実際にクリックされた回数は1万2700回で約0.5%、これにかかった費用は17万8,217円でした。後ほど、パブリックコメントに回答いただいた方の年代別の人数をご報告しますが、今回のSNS広告の効果について、パブリックコメントまで到達することは難しかったのではないかと感じています。しかし、表示回数としては約254万回ですので、パブリックコメントには至らなかったとしても、一定の周知という点では効果があったのではないかと考えています。資料1のその他の部分も、ぜひお目通しください。

続けて資料2をご覧ください。

1ページには、パブリックコメントの募集期間や閲覧場所などを記載しています。

2ページをご覧ください。パブリックコメントでいただいたご意見のうち、教育に関するご意見を抽出したものです。項番1をご覧くださいと、提出件数は35人、102件となっていますが、これはパブリックコメント全体での提出件数と人数であり、教育関係を抽出したご意見は、14人、33件です。

なお、項番2の「意見の要旨及び市の考え方」について、取り扱い区分をAからDに振り分けており、項番2に記載されている件数はパブリックコメント全体の件数です。教育に関する部分では、Aは1件、Bは5件、Cは4件、Dは22件、そして、現在所管課と調整中のため空欄となっているものが1件です。

項番2の表が、意見の内容です。提出者の年代別では、20代以下の方はおらず、30代が2人、2件。40代が7人、8件。50代が1人、1件。60代が3人、21件、うち1人で18件提出されている方がいらっしゃいます。70代が1人、1件です。

それぞれのご意見は記載のとおりであり、大まかな分野でグループ分けをすると、重複もありますが、教育施策に関するご提案が20件、AI・ICT関連が4件、インクルーシブ関連が3件、学校の地域連携に関連する内容が2件です。

資料3をご覧ください。

前回の総合教育会議で、「こどもたちからの意見を聞くべきではないか」というご意見をいただき、調整の結果、実施したものです。

実施内容等は、資料でご確認いただけます。提出いただいた学校や学年ごとの内訳を円グラフで表示していますので、ご覧ください。

資料4をご覧ください。こどもたちから今回いただいた意見の一覧です。

意見の趣旨でグループ分けをすると、総合計画を含めた計画に賛同的な意見・感想は32件、子育てへの要望が14件、計画に対する実現可能性への懸念が14件、娯楽や運動施設についての要望が12件です。

資料5は、こどもたちに総合計画の冊子をそのまま渡しても理解が難しいだろうという想定から、意見を求める際に、絵本の形式で計画を表現しました。参考としてご覧ください。

最後に、今後の予定を簡単にご紹介します。

本日、総合教育会議でご審議・ご協議いただいた後、12月3日に市議会へパブリックコメント等の結果を報告します。来年2月には今回の総合計画を議案として市議会に提出し、承認されると来年2月中に完成しますので、その後、周知活動を行なう予定です。

(柏原部長)

それでは、これまでの内容について、質疑応答・意見交換の時間を設けます。

(高島市長)

よろしく申し上げます。

全体に対するご意見でも結構ですし、パブリックコメントの回答に対するご意見でも結構です。忌憚のないご意見をいただければと思います。

(河盛委員)

こどもたちに対する資料は、この絵本だけだったのでしょうか。こどもたちは計画の本体を見ることはできたのでしょうか。

(伊藤室長)

資料としては、この絵本と、もう少し詳細な内容を記載したテキスト、計画原案の3つをご覧ください。回答をいただきました。

(河盛委員)

小学校1年生から中学3年生まで、かなり幅広い方に、全く同じ資料が使われたのでし

ようか。

(伊藤室長)

そうですね。

絵本は、小学校の低学年から小学校4年生頃のこどもに向けて作成しました。テキストは小学校の高学年から中学生くらいのこどもに向けたイメージで、中学生には計画の本体もご覧いただけるのではないかと目安で、3種類の資料を揃えました。

(河盛委員)

せっかく綺麗な絵本ができていますので、もう少し詳しく作った方がよかったかなと思います。曖昧なので、これで判断するのは少し難しかったかなと思います。

(伊藤室長)

当初、総合計画に関しては抽象度が高いということもあり、こどもの意見を聞くことがなかなか難しいのではないかと考えていましたので、聞くための準備ができていなかったのが正直なところです。8月の総合教育会議でご意見をいただき、急遽、どのようにこどもの意見を聞か検討し、短期間で詰め込んだ関係もあり、十分ではなかったところはあるかと思えます。反省すべきところです。

(河盛委員)

こどもの意見を聞いたことは、すごくいいことだと思います。

計画に直接関係ないのですが、一番気になった意見は、宮川小学校の4年生の「久しぶりにタブレットを起動したら知らないアプリがあったので開いたら面白そうな質問でやってみました。」という意見です。「久しぶりにタブレットを開いた」という点がどうなのかと気になります。私も時々こどもさんに聞いてみると、タブレットを活用されているクラスもあれば、あまり使わないというクラスもあるみたいですね。先生のお考えや、学年などの理由もあるかもしれませんが、結果的にどちらが良いとか悪いとかはなかなか言いにくいと思いますが、印象に残った意見です。

(尾上課長)

教員に、タブレットをどれぐらい使いましょうということを示しているわけではなく、効果的な活用を目的にしています。教科や単元によって使い方も違うので、そういったこともあるかと思えます。

今回のこのアプリは10月10日に入れたのですが、期間が短いこともあって、教員全員に周知の徹底ができていなかったのも、こどもたちも、急にアプリが出てきて驚いた部分もあるのではないかと思います。

(高島市長)

私は、この回答を見て「アプリを開くんだな」と思いました。インターネット等でわざわざパブリックコメントを見に行かないと思いますが、タブレットにアプリがあったら興味を持って開いてくれるんだな、と。タブレットが1つの窓のようなものになるということは発見でした。

(森川委員)

こども向け意見募集について質問です。対象となっているのは市立小学校・中学校に通う児童生徒となっていますが、4番の周知方法を見ると、ミマホルメを使って配信となっています。「通う」という言葉が気になりましたが、不登校の児童生徒も当然対象に含まれるという理解でよろしいでしょうか。

(伊藤室長)

おっしゃるとおりです。

(森川委員)

不登校の児童生徒さんについても、ミマホルメを通して周知いただいたということですね。わかりました。

(伊藤室長)

今後は、「通う」といった表現は変更するようにします。

(森川委員)

ありがとうございます。

(高島市長)

タブレットは不登校の児童生徒も持ち帰っているのでしょうか。

(尾上課長)

渡すことができているれば持ち帰っています。

ミマホルメでは、保護者に向けて「こどもと一緒にパブリックコメントを考えてください」という趣旨で配信しました。保護者の方にも答えて欲しいですし、ぜひ、こどもと一緒に芦屋について考えてくださいという趣旨で一斉配信をしたうえで、こどもはタブレットですぐに回答できる、保護者の方はクリックすると見ることができるという形の周知をしました。

(芳村委員)

こども向け意見募集の周知方法のミマモルメですが、ミマモルメは掲示板に様々な情報が送られるようになってから、正直なところ、情報が埋もれて見落としてしまうことも多いように感じます。周知方法を少し変えることで、意見提出件数が増えるのではないのでしょうか。

また、こどもは学校から出てしまうと、二言目には「面倒くさい」と言いがちなので、見ても、家で時間を使って、いざこどもと一緒にやろうとなるとまでとなると、なかなか難しい場合があるかと思います。普段から色々なことを話している中で、その意見をこのパブリックコメントに残せばいいのというような良い意見が出ることもありますが、このように改めた形になると正直な意見も出ないし、なかなか回答してくれなかったりするので、難しいと思います。例えば、タブレットを使って学校で一斉に行うと、件数も増え、より具体的な内容が出てくるのではないかと感じました。

(高島市長)

ありがとうございます。きっと、潮見中学校の3年生の、あるクラスが学校で取組んでくれたのだと思います。教育委員会として、学校の先生に広報してもらうような依頼はしたのでしょうか。

(尾上課長)

管理職向けに依頼文書は発出しました。その中で今回、潮見中学校では、取り組んでくれたクラスがあったということかと思います。

今回が初めての取組ですので、今後こういう機会があれば、良い方法がないか考えていかないといけないと思います。

(高島市長)

ここまで回答があるのはすごいことだと思いますし、どの授業・どの時間でやったのか、学校で時間を取ったのか、家で回答するように伝えたのかなど、様々あると思いますので、事例を横展開できたら良いですね。

ミマモルメが見にくいという点はどうでしょう。

(芳村委員)

通知が溜まってくるとそれを一括で既読にする機能があります。そうすると、それだけで見るタイミングを失ってしまうので、便利なようで少しどうなのかなとも思います。本当は1件ずつ目を通した方が良いと思うのですが、皆さんお忙しいのでなかなか見る機会がなく、一括で既読にしてしまうのもったいないなと思います。

(尾上課長)

ミマモルメの使用については学校ごとに異なっています。

今までの各学校での使用があり、教育委員会としてもチラシの配布や必要なものの配信をしていますので、使用について研究はしないといけないと思います。

(高島市長)

今回の周知は、教育委員会から出したんですね。そういった通知と、イベント周知などのチラシは同じ場所に入っているのですか。

(尾上課長)

チラシの掲示板機能は別です。今回の周知については一斉メールであり、メールは掲示板とは別のメールフォルダに格納されます。

(高島市長)

一応、埋もれない工夫はしたということですね。

(尾上課長)

そういう意味ではしていますが、皆さんの携帯電話に出る通知では同じような形で出てしまうので、同じものだと思われるかもしれません。アプリに入っているとメールとチラシの掲示板は分かれています。

(高島市長)

チラシがミマモルメでの対応となったことは、働き方改革においては大きな一歩だと思う一方で、広報力の面で課題が生じていると様々なイベントで言われます。こどもにとっての機会損失にならなければいいなと思いますが、そのあたりは工夫のしどころはないのでしょうか。「クラスごとの枚数は分けて、配っていただけていい状態にするので、紙で配らせてもらえませんか？」とも言われますがどうでしょう。

(尾上課長)

これまでも35枚のセットという形で分けていただくように皆さまにご協力をいただいていた。今回、チラシを掲示板機能にしたのは、教頭先生の働き方に寄与するもので、他市の状況も確認し、2学期からそのような形にしています。

ただ、これまでのような手紙だと、こどもが一人で見れたものが、ミマモルメでの対応だと見ることができない状況になっていますので、例えばポスター1枚をどこかに貼っておくなど、様々な工夫が必要かと思います。

(高島市長)

こどもたちのタブレットにチラシは送付されないのでしょうか。

(尾上課長)

学習用タブレットですのでチラシは送付されません。今回のパブリックコメントのアプリについては、教育についてこどもたちの意見を聞きたいということで入れました。

(高島市長)

ありがとうございます。ぐちゃぐちゃのプリントでなくなって良かったという保護者の声もありますね。

(尾上課長)

そうですね、確実に保護者には伝わる、送られるというのは良い点かと思います。

(三宅委員)

前回の「こどもの声を拾うところはないのか」という意見からこういった形になったと思います。こどもたちが「市はこういうことを考えて計画しているんだ」ということを知ったことが第一歩となり、要求・要望をするだけでなく、それを知って今後自分は何ができるんだらうとか、そういったことを考えていける人になるように繋がっていくと良いなと感じました。

(高島市長)

本当にそうですね。

(三宅委員)

「全然知らなかったけど、こういうことをやっているのは良いと思います。」「知らなかったけど知れました。」という意見もあったので、そこから、こどもたちに何か展開があるといいなと思いました。

(高島市長)

回答について、誰が答えたかは分からないのでしょうか。

(伊藤室長)

分かりません。

(高島市長)

お返事が書けたらいいなと思います。

「みんなからこれだけたくさん意見をもらいました」という内容を、タブレットを開けた時に出てくるようなところに書けたら一番良いかもしれないですね。

(伊藤室長)

そうですね。実施する方向では考えたいと思います。

(高島市長)

ありがとうございます。これで関心を持ってくれたら嬉しいですね。「なるほど」ということも結構ありますものね。

(河盛委員)

市の総合計画に入れるかどうかという話ではありますが、一般の方のご意見で、例えば眼科の先生が言われているような、ICT活用やタブレット教育の推進による視力の問題について、学校が何らかの工夫をする必要はあるのではないかと思います。

また、児童精神科の先生のご意見について、インクルーシブ教育については賛成をされる方も多いと思いますが、実際問題としては、このご意見のように十分な人材が補填されていないと、手が回らない可能性があります。障がいがあるかどうかに関わらずみんなと一緒に学ぶということは意義のあることですが、人が付いてあげる必要のある児童生徒もいます。隣の児童生徒や周りの方が手助けをするケースがあると思いますが、授業に集中できなくなってくるなどの負担になる場合もあると思います。手助けをする児童生徒が「やってあげますよ」と言っていたとしても、実は負担になっているという可能性もありますし、そのあたりも考慮して、十分な配置をしたうえでのインクルーシブ教育だと思います。総合計画に入れるかどうかにかかわらず、念頭に置く必要はあると思います。

他にも、一理あるようなご意見もありますので、日々の施策に対して考えるべきだと思いました。

(高島市長)

ありがとうございます。

(藤田課長)

児童精神科医の方が書かれている内容のようなご指摘は、保護者の方からも受けることはあります。まずは、「そのこどもがなぜそのクラスで学ぶべきなのか」ということについて、保護者と学校がしっかり対話をして、共通目標をもって持って臨まないといけないと常に考えています。

インクルーシブ教育については、人を付けて欲しいという要望が保護者からも学校側からもかなり強いです。ただ、それを突き詰めてしまうと、こども1人に対して大人が1人付かなければインクルーシブ教育は成り立たないのかという話になってくると思います。それは社会の在り方としては違うのではないかと考えています。

このご意見の方が一番言いたいところは、教師の専門性をしっかり上げていくことだと思います。特別支援の担任の専門性もそうですし、特別支援学級籍のこどもが通常学級のクラスにいるというクラス（原学級）の担任のクラス経営の力も必要だと思います。インクルーシブ教育に少なからず課題があるというのはそのとおりですので、これからどう専門性を上げていくかということに向き合っているところです。

（森川委員）

こどもからの意見を読ませていただき、様々な意見があって非常に驚きました。

私が以前から感じていることですが、芦屋はどうしてもボールなどで遊べる場所が少ないので、難しいと思いますが、そのような場所を増やす施策ができたらいと思います。

資料2の3ページの37番では、一般の方からも「施策の策定過程において、実際に子育て中の保護者や教育関係者、こどもたち自身の声を反映させる仕組みを構築すべきだ。」というご意見をいただいていますし、今回こどもからの意見を聞いて参考になるような意見もあったのではないかと思います。一般の方やこどもたちの声を聞くことを、上手く制度化していく枠組みのようなものがあつたらいいなと思いました。

（高島市長）

ありがとうございます。年に16回の対話集会や、私が中学校をまわって一緒に給食を食べながらこどもたちと話すという取組を今年も行なっています。そういった場面で、ボール遊びの話は出てきます。狭い公園でどこまでボールを使えるかという話があるので、全ての公園で使えるようにするのは難しいとしても、例えば校庭の開放の幅をもう少し広げられたらいいのではないかと思います。この数年で、教育委員会では学校の開放を増やしましたし、夏休みも開放していますよね。

（野村教育長）

夏休みに増やしています。

（萩原部長）

春休みも1日増やす予定にしています。

（高島市長）

学校のことを土曜日に行く場所だと思っていない人もいるかもしれないので、例えばそ

ういうところを知ってもらおうといったことができるといいと思います。

パブリックコメントは 1 回のやりとりですが、対話集会のように聞き返すと深く考えてらっしゃることが出てくることもありますし、そういうところの充実も含めてやっていると良いですね。

学校の運営や経営を話し合う学校運営協議会には、こどもの意見は入っているのでしょうか。

(尾上課長)

今のところはそういったものはありません。

学校運営協議会は昨年度から全校で始めたところで、今年度で 2 年目というところもあり、現状、委員の方は大人のみです。

(野村教育長)

共有しているのは全国学力・学習状況調査の結果などで、学校から送られてくるこどもたちのアンケートは共有していません。

(尾上課長)

保護者の評価は共有しています。

(高島市長)

本当は、そういうところで取組をできたらいいかもしれないですね。

中央教育審議会で、こどもの主体的な社会参画の推進について議論をしているのですが、例えば、教育大綱や学校運営協議会などに、いかにこどもの声を取り入れていくかということが大事だという話にはなったので、そういったところも、今後考えていくこともできたらいいと思います。

まち全体のことよりも、自分の学校のことの方が意見を出しやすいというのは当然あると思いますので、そういった取組ができたらいいと思います。

(森川委員)

市長がされている対話集会、本当に素晴らしいものだと思います。ただ、気になるのが、そこに来て意見を言えるこどもは良いですが、参加しても意見が言えないこどもであったり、そもそも、そのような場に行けないこどもの意見を、どのように聞くかという仕組みを考えていく必要があると思います。

(高島市長)

ありがとうございます。

(芳村委員)

パブリックコメントは、教育や子育てに一番携わっている世代の回答が少ないので、どう周知していくかが大切だと思います。先ほど説明があった SNS 広告の展開について、254 万回再生されてるのにクリック回数が伸びないということはもったいないと思います。広告を見たけど何をコメントしたらいいかわからないと感じて、クリックまではいかないのかなと思ったりもします。例えば、吹き出しで簡単な例のようなものが記載されていれば、そういう類のコメントをしたらいいのだということが分かりやすくなり、クリックに繋がるかなと思いました。せっかく出しているのに、もったいないと感じます。

(高島市長)

先ほど伊藤室長から説明があった 20 代、30 代の割合は教育に関する割合ですか。それとも全体の割合ですか。

(伊藤室長)

教育に関する数値です。

(高島市長)

全体としては、子育て世代の割合はどうなんでしょうか。

(伊藤室長)

パブリックコメント全体の 35 人、102 件における内訳は、20 代が 1 人 1 件、30 代が 5 人 6 件、40 代が 10 人 12 件です。

(高島市長)

つまり、教育ではなくても、子育ての話で書いてくださった方もいらっしゃるということでしょうか。

(伊藤室長)

そうだろうと思いますが、全体のボリュームとほぼ比例しているような状況です。

(河盛委員)

このパブリックコメントは芦屋市に住んでいる方だけが回答できるものですか。それとも、そうでなくても回答できるのでしょうか。

(高島市長)

在勤・在学の方も回答できます。

(河盛委員)

せっかく芦屋大学・武庫川女子大学・神戸女学院大学に行っているのに、おそらくその学生さんたちは誰も回答していませんよね。アンケートを取るときに、パブリックコメントをしますのでご意見くださいと、あらかじめ言っておいた方が良かったのではないかと思います。

(伊藤室長)

口頭での説明はしました。他市ではパブリックコメントをするときに、市内在住などの条件をかけてないところもあり、市外の方でも市に関与してくださっている方は一定「市民」だという見方をするとところもありますので、そこは今後考え直していく可能性はあるかと思っています。

(高島市長)

芦屋大学は全員対象になりますよね。7月に大学に行っているのに、学生さんは多分忘れてしまっていたのではないかと思います。パブリックコメントが始まったという連絡はしていなかったのでしょうか。

(伊藤室長)

していません。

(高島市長)

してもよかったかもしれないですね。

芳村委員、どういうものだったら回答しようと思いますか。

(芳村委員)

自由記述が難しいと思いますが、選択制にすると本心が読み取れないところもあるので難しいですね。

(高島市長)

普段、保護者の方々同士でお話しされる時には、様々なお話が出ているんですよね。

(芳村委員)

すごく出ています。

(高島市長)

なぜそれがここに書かれていないかですね。

一方で、この総合計画を作成する前に市民アンケートを実施しています。そこでは、3,000人を実験的に抽出してアンケートをご自宅に送りました。そこでの自由記述には、様々な回答がありましたよね。

(伊藤室長)
ありました。

(高島市長)
そのアンケートでは、30代などの方の回答も多くありましたよね。そちらで取れているということも言えなくはないかなと思います。

(伊藤室長)
その世代の回答も充分ありました。

(高島市長)
計画に対しての意見と言われるとなかなか難しいけど、普段思っていることは、そういったアンケート等で回答が来ているよということかもしれません。

(芳村委員)
「計画」というと硬いイメージがあるので、そこで意見するとなると、計画を読まないといけないし、きちんとしたことを言わないといけないと思うので、それもあるかもしれません。

(高島市長)
バナーに載せる名称として、「パブリックコメント」という専門用語が良くないかもしれませんね。
教育長はどうでしょうか。

(野村教育長)
まずは、こどもの意見を聴いていただいてありがとうございます。
学年にもよりますし、積み上げていかないといけない内容ですが、この資料で授業もできそうだなとも思いました。
意見を見ていると、“自分事になっているかどうか”が書き方で分かります。回答していることがまず意義深いことですが、「自分でやります」ということと「何かをして欲しいです」ということとは大きな違いがあって、「して欲しい」というのはまだまだ自分事になっていないように思います。授業が自分事になってくると、その延長線上で、自分のま

ちを考えるとということに繋がっていくように思います。

自分の学級・学年・学校という積み上げを大事にしないといけないですし、学校側も、11月の校長会のテーマである「総合的な学習の時間」などを考えるきっかけになると思います。これといった正解はありませんが、自分事になっているかというのはすごく大事ではないかと思いました。

そういう中で、特別活動や児童会、生徒会など授業者の立場で考えたときに、このコメントをどのように受けとめるかということは、教員側の当事者意識としても大事ではないかと思って聞いていました。

潮見中学校の生徒の66番、69番、90番の回答は、「して欲しい」とは書いているものの、自分たちだけではなく、世代を超えて暮らしやすいようにしていかないといけない、という思いを持っているということなんですよ。これはすごいと思います。家で相談して書いているのではなくて、純粋にこどもの声として出ているのがすごいことだと思いました。

また、79番の回答のような姿をたくさん育てていかないといけないと思いました。72番・80番の回答の、自然災害などの不確実なものに関する意見は、自分の住んでいる地域や芦屋は災害に強いまちなのか、自分たちが生きていくまちをどう守っていくのかという「まちの探究」のような、自分事になる授業に繋げやすいと思います。

こどもたちから提案していくような主体的な授業に変えていかないといけないということも、こどもたちの声から感じました。

また、「良い取組をいかに見せられていないか」ということも感じています。インクルーシブの視点でお話をすると、今日の体育大会でも、障がいのあるこども、ないこどもが一緒に手をつないで走っていたり、縄跳びをしたりしている場面がありました。それは私たちの地域では当たり前であると思いますが、当たり前でない地域があるということなんですよ。そういった点は気づいた人が発信をしないといけないだろうなと思っています。その手段はホームページやミマモルメだけでなく、これからは、こどもの側から発信できるようなツールの開発も必要なのではないかと考えています。こども自らが児童会や生徒会、あるいは探究クラブのようなところで、自分の学校やまちで見つけたものをどんどん発信していくような形は、学校運営協議会などでも生かせると思います。こどもの力を借りるというか、自分のまちであり自分の学校なので、こどもたちに委ねてくということは、わくわくすることに繋がっていくのではないかと思いました。

学校も、ホームページ、ブログで良い取組を毎日あげています。それに気づいていただいたうえで、このパブリックコメントに臨んでいただけると、だいぶ違うのかなと思います。時期が限られているため難しいかもしれませんが、入学説明会や全校保護者会などで、取組を紹介したあとにQRを読んで回答していただく、ということも考えられるかと思います。市役所と市民の皆さんと一緒に計画を考えているという発信をした後に、アンケートに答えてもらうと、また違うのかなと思います。

我々は大事なエッセンスを念頭に置いて、入学説明会や全校保護者会、学校運営協議会などの何気ないところで子どもたちの意見を捉え、パブリックコメントのようなタイミングで市に提出したり、授業の中で作りあげたものをそのままお出ししたりするなど、様々な方法が考えられるかと思います。例えば、探究コンテストや、自由研究での取組をそのまま提出するというのも、1つの自然な流れかもしれません。

(高島市長)

今年の1月の探求コンテストに出場していたことも、鳥の探求をしていたこともから、アップデートした探究をもらいました。鳥が好きな子どもで、芦屋にいる鳥を見つけてはその絵を描いて、鳥マップや鳥図鑑を作ったり、芦屋以外にも探索したりしているそうです。その子どもが、今年の夏休みの自由研究で作成したさらにパワーアップした鳥地図を持ってきてくれました。その子どもがすごいという話もちろんありますが、その探究は、広く見ると、こどもの話だけではないと思います。例えば、鳥と環境の話であればみんなで考えなければいけないことですし、こどものそういった取組は、大人に対しても良い影響を与えることが多々あるんだろうと思います。

そういうものを、いかに大人や他の世代、他の子どもたちにも広げていくか、というのはぜひ一緒に考えていただけたらと思います。

(野村教育長)

本人がいろいろな課題について「これ不思議だな」と思ったことや「これはこんな風になったらいいな」と思っていることを自分で突き詰めていると、市役所の方だったり、企業の方だったり、まちのお店の方だったり、様々な専門家に話を聞きにいっていることが多いです。そういった社会とのつながりがとても大事で、その時に出てきたもの、考えを、こういった機会のために残しておくのも大事なのではないかと思います。パブリックコメントの時期とは異なりますが、こどもの自然な学びの適時期にしっかり拾っておいてあげると、先ほど芳村委員が言われたような「せっかくならここで言ってほしい」という内容が残っていくのかなと思います。

次の計画改定を待たずに、今からそういう事業や活動を、保護者の方とも一緒に気にしておいて、どんどん提案していけば面白いと思います。

(高島市長)

小中学校だけでなく、市内に高校もありますが、高校には行っていたのでしたでしょうか。

(伊藤室長)

県立芦屋高校は、総合計画の紹介としてではありませんが、総合計画も含んだ分野ごとのテーマの授業で伺っています。

(高島市長)

そういった取組は、市長部局と教育委員会と一緒にやる場所ですし、そこがより進んでいくと、「学んでいることは意外と世の中につながってるんだ」というような思いにつながると思います。

「こういう計画をやってるから、興味を持ってください」という話ではなく、むしろそれが日常的に出てきていることが良いということですよ。

(野村教育長)

「学校運営協議会で発表した内容を、そのままこのパブリックコメントに移しては」などの展開ができれば、自然な流れではないかと思いました。

(高島市長)

ありがとうございます。

学校のブログは保護者の方に見られてるんでしょうか。最近はブログという形式だと閲覧する方も減っているかもしれません。

(野村教育長)

自治体によりますが、XとかInstagramに変えている学校が多いですよ。

(高島市長)

ブログをあげるとなれば、写真にモザイクをかけるなど、先生は大変だと思います。それであれば、閲覧してもらえるツールがいいかなと思いますが、先生方の慣れなどもありますし、そんな単純な話ではないのかもしれないですね。

(尾上課長)

写真の選定や、作業時のシステム環境などの問題もあると思います。

(河盛委員)

パブリックコメントの募集で、「まちづくりに関するあなたのご意見をお待ちしております。第5次芦屋総合計画 後期計画（基本計画）」と書いてあると、計画を全部読まないといけないという印象があると思いますが、「あなたの興味のある、もしくは普段気にかけてる分野だけで結構です。」というような内容であれば、何か言いたいことがある人は結構いるのではないかと思います。例えば、介護をしている方であればその分野に意見があるなど、様々あると思います。そういった、特定分野、興味があるところに対するご意見でも結構ですというような内容を入れたら、少し意見が増えるのではないかと思います。

「全部読まないでだめなのかな」と思う方もいらっしゃると思いますし、全部読むだけで

も大変です。普段不満に思ってることやご意見は、いずれかの分野に当てはまるはずなので、それに対するご意見で結構ですというような表現にすれば、回答したい人が増えるのではないかと思います。

(柏原部長)

ありがとうございます。その点におきましては私どもも同じ思いをもっています。昨年、「こども・若者計画」のパブリックコメントを実施しました。こども・若者の計画であるということが分かっているので、比較的、現役世代の方がコメントされていました。対話集会でも、「子育て・教育」「福祉」のようなテーマであれば、ご自身のフィールドを先に把握できますので、発言しやすいということがあると思います。今回のように「まちづくり」とすると、ご自身が属することは何なのかということを考えられると思いますので、「教育」「子育て」「環境」など、少しフィールドを書いておけば違ったのではないかと思います。

総合計画はすべての計画の上位計画なので、「こども・若者計画」のパブリックコメントなどもこの計画につながっていきますし、総合計画でご意見をいただかなくても、全てのご意見は総合計画につながっていくという考えはあります。ただ、この上位計画というのが、個別具体で作成している計画もあわせ持った、市の10年後を描いている大きな計画なので、やはり関心は寄せていただきたいなと思います。

ただ、やはり委員の皆さまがおっしゃったように、ご自身のフィールドに入っているのかということが、分かりにくかったと思います。「資料を全部読まないといけないのか」「壮大な意見を言わなければ発言・コメントできないのか」というお声も聞かれますが、決してそうではありません。その計画に即座に反映することはなくても、頂いたご意見を今後の施策にどう活かしていくかという次のステップには繋がりますので、「計画が良いと思った」だけでも構いませんし、「実はこんなことを困っている」などでも構いません。委員ご指摘のとおり意見を述べるという点においては総合計画は難しい点はあるかと思いますが、全ての計画に通ずることだと思いますので、今後は意を用いて取り組みたいと思います。

また、こどもの意見を聞くということは、市役所の様々なところで行なっています。意見を聞くということは、こどもさんのお時間をいただくということですので、私たちがこどもたちに還元することも必要だと考えています。例えば、市が学校から「授業をしてほしい」という依頼をいただきそれに応えることは、市として、こどもに還元できる貴重な時間のひとつの例ではないかと思います。もしそうなれば、学校の先生方にこどもの意見を聞きたいと依頼した場合も、「手間だけ取らされる」というイメージになりにくいのではないかと思います。私たちがこどもの意見を聞くことは、施策をすすめるということはもちろん、こどものためではありますが、市職員として還元できるように市全体で考えていくという両方の枠組みが出来たらすごく良いのではないかと思います。今はそのような取組を政策推進課が行っていますが、この先市役所全体で還元ができたらいいなと考えています。

(高島市長)

面白いと思います。例えば中学校でそういった授業をしようとしたら、いつぐらいにスケジュールを考えたらよいでしょうか。もしも、来年度の相談をしたいということであれば、今の時期は遅いでしょうか。

(野村教育長)

来年度の相談だと、今は早すぎるかもしれないですね。

(尾上課長)

実際に、何度か学校教育課を通じて市長部局に依頼をしています。昨年度は、岩園小学校でもそのような授業に取り組んでいましたし、環境関係でも何度かお願いをしています。また、図書館にもよく来ていただいています。

今回はUCCという企業でしたが、自分たちの身の回りのことを考える場合は、外部の企業だけでなく、芦屋市役所から来てもらうことも、さらに自分ごととして考えて進めていくきっかけになるのではないかと思いますので、そういったことが徐々に増えてきたらいいなと思います。

総合の授業では、次期学習指導要領で、これまでのやり方ではなく新たに自分たちの探究などに取り組んでいくという検討もあるので、そのような教材にもなってくるのかなと、お話を伺って思いました。

(高島市長)

ありがとうございます。市職員が学校で話をするとすれば、その内容は、市の取組について話す授業と、キャリア教育に係る授業の2種類があると思います。

(柏原部長)

学校として大人を必要としてくれることはたくさんあると思います。

庁内のそれぞれの部署と、こどもたち・学校の先生が、お互いを必要としていることがあると思うので、お互いにメリットがあるという形が良いと思います。全庁的に取り組むということになれば、お互いがやりやすくなるのではないかと思います。

今はどうしても各課で依頼を受けようとするので、お断りするようなこともあります。全庁で取り組んでいけたら負担も小さくなりますし、学校に伺うこともできるのではないかと思います。

(高島市長)

今の話もそうですし、例えば、学校で何らかの工事などをするとき、「こんな順番で工事をしているんだ。」とか「なんで工事ってこんな時間かかるの?」「実はこうやっているん

だ。」というような切り口も面白いと思います。様々な切り口があると思うので、考えていただいても面白いのかなと思いました。

(森川委員)

一般の方のパブリックコメントのうち、11番の方のご意見の中で「本来の主役である「生徒」が、「どんな子どもに育つか」という視点が欠けていることは、計画として最も重要な部分が抜けています。」といったお話をいただいておりますが、これに対しては市でお答えいただけてるとおりかなと思います。

その関連ということでもないんですが、計画原案の22ページの「学び」のところに「地域全体の Well-being の向上」と記載がありますが、注釈を見ると、「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と書いてあり、これは個人を前提にした書きぶりかと思っています。国が出した第4期教育振興基本計画でも、Well-being は個人の Well-being が前提としてあり、それが集まって地域の Well-being が向上するといった書きぶりだったかと思います。ここで「地域全体の Well-being」が出てくるのは、果たして書き方としてこれでいいのかなと思います。

(高島市長)

意図としては「地域にいるみんなの Well-being」ということですが、確かに、これだけだと主語が「地域」に見えますね。言い換えるとすれば「地域にいるみんなの…」などでしょうか。

(伊藤室長)

「地域」という言葉については、「地域」という団体もあれば、そこに住んでおられる個人も含んだ「地域」というイメージでも捉えています。このように書くと分かりにくいでしょうか。

(森川委員)

「個人の Well-being、ひいては地域全体の Well-being の向上」など、一言入れることでもいいのかなと思いました。

(伊藤室長)

Well-being という言葉自体に、もともと、「個人」と「社会」の両方の概念が入っていますが、個人の Well-being、地域の Well-being という形で分けた表現にした方が、誤解がないのではないかということでしょうか。

(森川委員)

そうですね。私の認識では個人がまず先かなと。

(高島市長)

なるほど。変えられるなら変えてもいいと思います。

(伊藤室長)

地域の全体の Well-being となってしまうと、個人の Well-being という部分が少し薄らいでしまうので、明示するということですね。

(森川委員)

そうですね。

教育振興基本計画だと、同調圧力などとの関係が慎重に書かれていて、同調圧力にさらされて自分自身も言いたいことが言えないとか、やりたいことができないとか、そういうことで Well-being が達成できなくなるという関係性が書いてあったと思います。

私だけかもしれませんが、地域を全面に出してしまうと、個人が幸せになれないような懸念があります。

(高島市長)

なるほど。

(伊藤室長)

この「地域全体の Well-being」の前の方に、「個人の自己実現を促し、生きがいや社会とのつながりを育むことで地域全体の Well-being」という文脈にはしていますが、分かりにくいでしょうか。

(森川委員)

それは分かるのですが、細かくて申し訳ないですが、前段の「自己実現を促すこと、生きがいや社会とのつながりを育むこと」と個人の Well-being はまた違うのかなと感じます。

(三宅委員)

私も、「個人が先ではないんだ」というのは読んでいて感じました。

(高島市長)

どう書かれていると良いでしょうか。

(森川委員)

例えば「個人の Well-being の向上、ひいては地域全体の Well-being の向上に不可欠です」などであれば分かりやすいかと思います。

(伊藤室長)

一度検討させていただいてもよろしいでしょうか。

(森川委員)

細かい話で申し訳ありません。

(伊藤室長)

ありがとうございます。

(高島市長)

今回は、修正ができる最後のチャンスですよ。

(伊藤室長)

総合教育会議の場では最後のチャンスとなる可能性が高いです。

もしも、12月の議会の中で議論があり、再度、総合教育会議に諮り・協議をいただかないといけないという状況になれば、再度、場の設定をさせていただくことになります。

(柏原部長)

案は一旦お示しをされていて、ご意見を頂いた上でパブリックコメントをしています。

12月議会はパブリックコメントをどのように計画に反映させるかという報告ですので、基本的に大きく変わることはないとは考えていますが、計画の軸を大きく変えるような話になればもう一度ご協議を頂くお時間を設定することになります。現時点では、その可能性は高くないかと考えています。

(高島市長)

貴重なご意見、ありがとうございました。非常に分厚い計画ですので、もしお気づきのことがあれば、後ほど教えてください。

その他について何かありますか。

(柏原部長)

特にはございません。

先ほど申し上げたとおり、本件に関しましては議案となりますので、教育委員会の場で、議案として提出させていただきたいということのお諮りをしたいと考えています。

また、このテーマとは別に、場合によっては今年度あともう一回、総合教育会議を開催させていただく可能性があります。開催の予定が立ちましたら、日程等調整等、都度ご連絡をさせていただきます。

最後に、教育長から一言ご挨拶をお願いいたします。

(教育長)

今日は本当にありがとうございました。

Well-beingのお話が出ましたが、こどもの個人のWell-beingを考えたとき、それぞれに「今」はなかなか考えにくいかもしれませんが、やりたいことができていたり、夢中になることがあったり、そういったところの延長線上に、自分が大人になったときに「あの時よかったな」「今こうなれているな」などと感じるところがあると思います。

そのためには、今日のお話にもあった、教師や市役所の職員など自分の周りの大人が一緒になって、自分たちのことや市のことを考えているということが、とても大事なことだと思っています。私たちは先生たちに伝えながら、先生がそれをこどもたちに伝えていくということが、たいへん大事なことであると思いました。

教育長を拝命してから思っているのは、学校から社会を変えていくのだということです。社会から求められて何かをするというのではなくて、学校教育の段階から積み上げていくボトムアップ型の取組がたいへん大事であると思います。今日、改めて主体性の回復の大事さや、どうやって引き出していくかという重要性を感じた次第です。

総合計画の中には教育振興基本計画も盛り込まれている形になっていますので、総合計画をもとにしながら来年度の「芦屋の教育指針」を作っていきます。教育指針は粒度をもう少し高めて、より具体にしていけるものなので、それを各教員が手に取って、こどもたちにもどのように落とし込んでいくかということをイメージしながら、一緒になってやっていきたいと思っています。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

(柏原部長)

ありがとうございました。本日の会議録でございますが、作成次第、その内容をご確認いただけますので引き続きよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして本日の会議は閉会といたします。ありがとうございました。

以上